

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名（ 四日市農芸高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校
(2)	育みたい児童生徒像	○将来のスペシャリストとして、専門科目への興味・関心を持ち、専門的な知識・技能の習得を自主的に行うことができる生徒 ○自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めることができる生徒
	ありたい教職員像	○目指す学校像実現に向けて、情報共有と意思疎通を図ることができる教職員 ○生徒の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 専門的な知識や技術の習得、進路希望の実現、人格形成</p> <p><保護者> 安全安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立</p> <p><地域住民> 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信</p> <p><地域住民> 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施</p> <p><同窓会> 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成</p> <p><大学等や産業界> 有能な人材育成への期待</p>		<p><保護者> 本校教育活動への理解と協力、特に家庭でのしつけについて</p> <p><地域住民> 本校教育活動への理解と協力、特に生徒の活躍の場面の提供、地域資源の活用</p> <p><同窓会> 本校教育活動への理解と支援、特にインターンシップ受け入れや進路開拓</p> <p><大学等や産業界> 本校教育活動への理解と連携及び支援、特に進路実現や商品開発に向けた連携</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の様々な事業を有効活用することで、専門教育の充実につながっている。 ・ 地域連携を学習活動の向上に活用していくことは、学校教育にとどまらず、地域の活性化という視点からも有効である。地域連携の取組が、地域住民に十分に浸透していない部分もあるので、今後もマスコミ等を有効に活用して、PRすべきである。 ・ 基礎学力の向上を含め、本校で学んだことが、卒業後にどのように活かされているのかを知り、これからの教育活動を充実させていく必要がある。 ・ 中学卒業生の減少に対応した系、学科、コース体制の見直しによる新しい専門高校の魅力づくりを検討する必要がある。 ・ 本校の伝統である何事にも一生懸命、素直に、真面目に取り組むという学校文化をさらに高めるために、教職員が一丸となって指導・継承していく必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。 ・ 校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。 ・ 農業教育、家庭科教育をすすめる上で、校内施設設備の充実が急務である。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。 ・ 業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のスペシャリストの育成と地域連携やインターンシップ等の活用を通して、より実践的な学習活動を展開する。 ・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。 ・心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業生の減小傾向が進む中で、中学生やその保護者にとって魅力のある学校づくりに務めるとともに、学校の将来構想・展望に関する検討を進める。 ・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。 ・教育相談や特別支援教育の充実のための体制づくりを進める。 ・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を充実し基礎学力の向上を目指すと共に欠席遅刻を減らす。 ・高い目標を持たせ積極的に資格取得を奨励する。 ・生徒一人ひとりが納得いくコース選択を目指す ・多面的な学習指導を実施するために図書館を活用する <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力診断テスト、基礎学力テスト（10回以上）、進路模試、習熟度による補習実施及び皆出席60%以上等を実現する。 ○生徒が納得するコース選択のため、各学科・コースと連携して説明会や学年通信等を発行する。 ○授業を充実させ、最大限の授業変更の努力をし、自習時間を減らす <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○成績不振による原級留置者をゼロにする ○検定合格・資格取得者数のべ1450名（1人2つ以上） ○図書館を活用した授業50時間以上、生徒一人あたりの貸し出し冊数5冊以上 		
進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識を高め、挨拶の励行と生活マナーの向上を図り、一人一人の進路実現に向けた指導に取り組む ・企業との連携を深め就職先の安定確保に努める ・専門性を活かした進学指導を強化する ・中学生やその保護者にとって将来の進路を考えたとき、本校に入学したいと思える出口対策に努める <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1学年－勤労観を育み自己理解を深める指導を行う ○2学年－総合的な学習の時間を通し、自己の実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、進路の意思決定ができることを目指す ○3学年－進路決定に向け学年と協力し進路未決定者ゼロを目指す ○学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者への早期からの指導を行う 		

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年の進路講話を4回以上実施 ○各学年進路希望調査を年2回実施 2・3年生は1回以上の個人面談実施 ○進路広報誌「あすなろ」を1年3回2年5回3年8回以上発行 ○学年、学科と連携し150社以上の企業訪問を行う。生徒は3社以上の企業見学実施 ○3年校外模試を3回実施 ○国公立・難関私立大学への合格者10名を目指す 		
<p>生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な校内美化指導、環境教育を指導する ・担任と生徒指導部の連携強化を図る ・組織的な生活指導を通じて生徒の問題行動の抑止を図る ・日常の挨拶の徹底と、生活マナーの大切さを指導する ・部活動や学校行事への積極的な参加を促す <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月例の生活点検を実施する ○毎日の登校指導等を通じて挨拶の励行を図る ○環境デー、校外清掃ボランティア等を実施する ○部活動を充実させる。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月例生活点検合格者90%以上、再点検合格者100%を目指す ○全教員の100%が生徒に対しての声掛けが出来ていると感ずることを目指す ○全生徒・教職員の80%以上が挨拶は出来ていると感ずることを目指す ○全生徒・教職員の80%以上が状況に応じた言葉遣いができていると感ずることを目指す ○生徒会行事を良かったと感ずる生徒が85%以上 ○クラブ加入率70%以上 ○環境デー校外作業への参加生徒が全校生徒の70%以上 		

<p>農業教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目における資格を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図る ・農業教育を充実させ、関連分野への興味関心の向上を図る ・農業クラブ活動を充実させる ・専門性を活かす進路先の確保のための企業開拓、各機関との連携を図る ・農業教育の推進のため適切な施設設備の活用、更新を図る <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門教科を通じて、資格取得講座の開設及び指導を行う ○インターンシップ、ファームステイ等への取り組みを促し、農業関連分野へ興味関心を深める ○生徒の安全を第一とした実習・実験を行い、GAPについての取組を学校農場を通じて推進する ○生徒の希望に応じたコース決定指導を行い、ガイダンス、面接等でミスマッチの無いよう配慮する ○老朽化した施設設備の改修と予算化を要請、計画実施する <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○推奨する資格取得者、延べ300名以上、職業教育顕彰30名以上、アグリマスター顕彰25名以上、農業クラブ競技会（県大会で最優秀4つ以上、東海大会優秀賞を2つ以上、全国大会優秀賞4つ以上） ○GAP認証への取り組みを推進し、2つ以上の認証取得と生徒の80%以上が周知 ○コース選択満足度100%、学習環境での生徒満足度90%を目標とし、学習環境を整え、生徒満足度90%を目標とする ○各種イベント、出前授業、地域開放的な取り組みを積極的に行い、地域に根ざした学校づくりを行う 		
<p>家庭科教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な技術を向上させ、各種コンクール・ショーに入賞できるよう指導するとともに、家庭クラブ員としての自覚を持たせ、生活文化科の生徒全員が積極的に活動を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進学に向けた専門知識の充実を図るために補習授業を行う ○教員が各種講座や研修会へ1回以上参加し、専門知識をより充実させ、授業に還元する。 ○専門科目における資格取得を勧め、上級の資格取得に取り組む ○地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わりを持ち、社会マナーの充実を図る <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭クラブ活動の充実度90%以上、資格取得者数延べ800名以上を目指す ○社会マナーに関する個別指導の機会を一人につき、2年生に対して1回以上、3年生に対して2回以上、持つ ○地域連携参加生徒の満足度90%以上を目指す ○将来の進路希望を固めることのできた者90%以上を目指す 		

<p>人権教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識するための取り組みを推進する ・校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成し、実施することにより人権教育を推進する 	
改善課題		

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>働きやすい環境づくり</p>	<p>総勤務時間の縮減に向けて、働き方改革に取り組み、働きやすい環境をつくる。</p> <p>【成果指標】〔平成30年度比較、()内は平成30年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月80時間を超える時間外労働者の年間延べ人数を50%削減(92人/年) ○時間外労働を月2時間削減(35.6時間/月) ○休暇取得を年0.5日増加(20.3日/年) <p>【活動指標】〔平成30年度比較、()内は平成30年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時退校日を定期考査期間中とし、定時に退校できる職員の割合85%を目指す。(48.8%) ○部活動休養日を週1日設定し、予定通り休養日を設定した部活動の割合100%を目指す。(98%) ○放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合85%を目指す。(63.4%) 		
<p>開かれた学校作りと組織運営の充実、情報提供による信頼の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、入門講座、農芸祭、各種講習会等、校外から参加する催しの企画運営を見直す。 ・HPの効果的な運用を検討し、最新の情報を発信する ・文書及びHP、絆ネットによりPTA行事や保護者公開の学校行事などの紹介に努め、教職員との共通理解・連携を進める ・PTA理事会を充実させ、PTA行事の改善を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電子掲示板を活用し、情報提供に努め、毎日運用する <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会・高校生活入門講座、農芸祭等の参加者の満足度90%以上 ○HPの更新月3回以上 	<p>。</p>	

<p>環境教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育で「育てたい生徒の力」を共有し、日常の教育活動の中で環境教育を実践する ・地域とのコミュニケーション活動を推進する <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内の委員会に位置づけ組織的に取り組む ○環境マネジメントシステムにおける本年度の実施計画を策定し全職員で共有する <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6月に環境週間、10～11月に環境月間を設定し期間中に全教職員が各々の授業で環境教育を実践する ○地域清掃活動を実施する ○全職員協力のもと、ISO14001再認証審査をうけ、環境マネジメントシステムを維持する 		
<p>危機管理体制の充実と生徒・教職員の安全を守る取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルにより、危機管理にかかわる訓練を実施し、いざという時に備えられる組織運営を目指す。 ・生徒の各種検診を充実させる ・情報共有を充実させ、保健室利用、学校生活において気になる生徒など担任、学年、分掌との情報交換・共有を密にし、迅速な対応連携する <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じてスクールカウンセラー・発達障がい支援員につなげ、支援体制を構築する ○再検査等の連絡及びその診断結果の回収を確実に行う ○保健部研究会等を充実させる <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の防災訓練を実施する ○内科検診、胸部X線、心臓検診、検尿等の受診率100%を目指す ○再検査の連絡等は100%実施する ○AED講習(職員対象5月：生徒対象7月)を2回実施する ○性教育講座(1学年対象7月)を実施する。 ○保健教育にかかる掲示や保健便り(学期2回:保健委員作成)の発行 ・保健部研究会での発表(2学期末)。 ○食育・食生活指導:農芸祭での食品調理説明会を実施する 		
<p>改善課題</p>			

5 学校関係者評価

明らかになった
改善課題と次への取組方向

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

学校運営についての改善策